

1にガクポ、  
2にガクポ!



アヴニール労務事務所 所長 柿野元博

http://www.avenir-sr.jp

E-Mail avenir4you@gmail.com

## 編集後記 日本一丸

忙しい毎日ではありますが、映画「マイケル」とサッカーW杯の日本初戦だけは見逃せませんでした。封切り翌日に映画館へ足を運び、月曜の朝4時に起きて（嫌がる家内を巻き込んで）テレビの前でオランダ戦を応援しました。

テレビ越しでもスタジアムから伝わる日本の応援の歌声に驚きました。感動すら覚えるくらい。試合後の森保監督は、「**サポーターの皆さんの念が、気が、選手たちを動かしてくれた**」と興奮気味に感謝の言葉を口にしていました。( ^o^ )

うるさくて寝とれんがな



今回の森保ジャパンは「**日本一丸**」を掲げています。この言葉は単にチームワークの良さを表すスローガンではなく、選手はもちろん、スタッフやサポーターも含めて一つのチームで戦うという姿勢を示しています。観客席の人たちは試合に出場しているわけではありません。それでも応援する姿からは、「自分たちも一緒に戦う」という気持ちが伝わってきます。だからこそ、スタジアムの空気が選手たちの背中を押すのでしょうか。

そこには<sup>へんぼうせい</sup>心理学でいう「**返報性の原理**」が働いているように思います。東日本大震災の時にテレビで繰り返し放送されていた、金子みすゞの「**こだまでしょうか**」という詩を覚えている方もいらっしゃると思います。『遊ぼう』っていうと『遊ぼう』っていう。あのCM。あの詩が、誰もが生来持っている「返報性の原理」を表現しているように感じます。

人は応援されたり、信頼されたりすると、その思いに応えたいと自然に感じるものです。選手たちはサポーターからの大きな声援を受けることで、「その期待に応えたい」という思いを強くするのでしょうか。一方で、懸命に戦う選手の姿は、応援する人たちにさらなる声援を送りたいという気持ちを引き起こします。こうした互いに与え、応え合う関係が、まさに「一丸」という一体感を生み出しているのではないのでしょうか。( ^\_^ )

ごめん 僕もごめん



職場においても「返報性の原理」は当然に働きます。( @o@ )  
上司や同僚から期待されると、「その期待に応えたい」と思うもの。逆に、自分が周囲を支えたり励ましたりすることで、組織全体に前向きな連鎖が生まれることもあります。

その一方で、返報性の原理は必ずしもプラスに働くとは限りません。最近公開されたエン転職の「**上司について**」のアンケート結果にも、その一端がうかがえます。

( <https://employment.en-japan.com/enquete/report-132/> )

その中で「どのような点で『困った上司』と感じましたか?」という設問に対し、1番多かったのが「**人によって態度を変える**」上司でした。( >\_< )

「どうせ君には」という思いがなんとなくでも相手に伝わってしまうと、本能的に反発してしまうものです。この「返報性の原則」は、職場での人間関係だけでなく、社会で起こるさまざまな対立やトラブルの背景にも潜んでいるように思います。僕たちは誰一人として完璧ではありません。だからこそ、「返報性の原則」がマイナスに働き、お互いの気持ちがすれ違ってしまわないように、**同じ職場で目的を共有する者同士であるなら、常日頃からその目的を確認する機会を持ちたいもの**です。



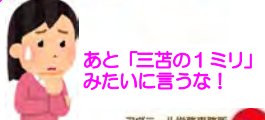
映画「マイケル」には登場しませんが、マイケル・ジャクソンの歌に「**Man in the Mirror**」という曲があります。この曲の中で歌われているのは、「**世界を変えたいなら、まず鏡の中の自分を見つめよう**」というメッセージです。社会や環境や組織の問題を語る前に、自分自身にできることはないだろうか。自分を変えたら周りも変わるかもしれない。そんな問いかけが、歌に込められているように感じます。( -\_- )

森保ジャパンが掲げているのを見て改めて考えた「一丸」という言葉。シンプルだし少し古臭い気もする、なんだか不思議な字面（じづら）です。それぞれのいろんな持ち味や個性を認めながら、チームとして目指すものは同じ。だからこそ誰かがミスしても批判に走らずに、みんなでカバーする。

「一丸」という言葉がマイケルのメッセージとどこかつながっているような気がして、僕にはなんだか尊くて大切な言葉のように思えるのです。( ^\_- ) ☆



あんたは鏡見過ぎやで!



注) 柿野家の顔ではありません

アヴニール労務事務所  
未来は変えられる! **avenir**